

令和元年度 卒業式式辞

木々の芽もふくらみはじめ、春の息吹が感じられる今日の佳き日、令和元年度卒業証書授与式を挙げていただきましたところ、多数のご来賓の皆様のご臨席を賜り、誠にありがとうございます。高いところからではございますが、厚くお礼申し上げます。

ただ今、卒業証書を授与いたしました357名の卒業生の皆さん、卒業おめでとうございます。皆さんは、本校の校風・校是「自由と創造」「日新日進」のもと、本校の教育目標である「強靱な知性」「みずみずしい感性」「品格ある人間性」に沿って、日々の勉学や行事、そして、部活動など、弛まない研鑽の日々を積み重ね、本日、晴れて卒業の日を迎えました。

3年前の入学式の日から今日まで、共に学び、励まし、語り合い、苦楽をともにした友達や先生方、そして学校ともいよいよ別れ、本校を巣立つ時がきました。皆さんの胸に刻まれた、本校の様々な思い出の一つひとつは、皆さんのバックボーンとなり、生涯、皆さんを支えてくれるものと確信いたします。

今、皆さんが手にした卒業証書は、皆さん一人ひとりの努力によって得られたことはもちろんですが、その陰には、深い愛情を持って見守って下さったご家族、先生方、友達、そして、本校創立以来ご支援をいただいている多くの人たちの励ましや支えがありました。このこともしっかりと胸に刻み、感謝の気持ちを忘れることなく、今後一層の精進を積み重ねることを期待します。

さて、昨年5月には平成から令和へと元号も変わり、新しい時代の始まりを感じました。そして、今年には東京でオリンピック・パラリンピックが開催され、2025年には「いのち輝く未来社会のデザイン」のテーマのもと、大阪・関西万博が開催されます。国連が掲げる「SDGs（持続可能な開発目標）」達成の目標年である2030年までは残り10年、SDGs実現に向けた取組みはますます加速していくことでしょう。

しかしながら、一方では、地球温暖化、民族紛争、人口爆発、先進諸国の政治的分極化など多くの問題が生じ、我々人類はこれらの答えのない課題に直面しています。このような社会の中を皆さんは生きていくことになります。輝く未来を創っていくには、答えの見えない課題に対しても、意欲的に取り組む姿勢、自ら気づき、自ら考え、自ら行動することが必要となります。志を高く掲げ、明確な目標を持って三年間を過ごしてきた皆さんは、これらのことを本校で学び、実践的、創造的に社会の諸問題に立ち向かう力を培ってきました。皆さん一人ひとりが、無限の可能性を秘め、限りないパワーを有しています。このことを決して忘れず、高津高校の卒業生として、自信を持って、これからの未来を切り開いてほしいと思います。

皆さんの輝かしい門出を祝して、長い人生で一生持ち続けてほしいふたつのことをお話しします。

一つ目は、「夢を持ち続けてほしい」ということです。

21世紀は変化の激しい先行きが不透明な時代ですが、未来に向かって夢を描けるかどうかで人生は決まってきます。自分の人生に対して、自分はこうありたい、こうなりたいと

いう大きな夢や高い目標を常に持ち続けることが大切です。そして、その夢の実現に向け、一步一步着実に努力を継続してください。新しいことを成し遂げられる人は、自分の可能性を信じることでできる人です。現在の能力をもって「できる、できない」を判断してしまっ
ては、新しいことや困難なことはできません。人間の能力は、努力し続けることによって無限に広がっていきます。皆さんには、常に自分自身のもつ無限の可能性を信じ、勇気を持って挑戦するという姿勢を大切にしてほしいと思います。

本校の校風・校是にある「日新日進」は、すべてのものは絶えず動き、絶えず変わりつつあるという生成発展の自然の理法も表しています。人はえてして変化を好まず、現状を守ろうとしがちです。しかし新しいことや困難なことにチャレンジせず、現状に甘んじることは、すでに退歩が始まっていることを意味します。皆さんには、「日新日進」の精神で、どんな環境にあらうとも、真面目に一所懸命生きること。そして、人のため、社会のためという社会貢献を強く意識し、おおいにチャレンジしていただきたいと願っています。

二つ目は、「素直な心を持ち続けてほしい」ということです。

パナソニックの創業者である松下幸之助は「素直な心」を提唱し、“素直な心”とは、「私心なく、くもりのない心、とらわれない心、自分の利害とか感情、知識や先入観にとらわれず、物事をありのままに見ようとする心である。」と言いました。本校の校風・校是にある「自由と創造」という言葉を用いれば、「自由な心」と言い換えられるかもしれません。人間は心にとらわれがあると、物事をありのままに見ることができず、判断を間違え、行動を過つことになりやすいものです。それに対して素直な心は、何ものにもとらわれず、物事をありのままに見ることができ、それに基づいて、何をなすべきか、何をなさざるべきかということが自ずと分かってくるということです。

二十一世紀は、変化し続ける社会に柔軟に適応する能力を身につけた人間が活躍する時代である一方で、命を大切にす
る心、感謝や思いやりの気持ち、自然や宇宙に対する畏敬の念など、人間としての心を益々大切にしなければならない時代です。そのときに、皆さん一人ひとりが今の「素直な心」「自由な心」を持ち続け、お互いに思いやり、感謝し、そして、お互いの人権を尊重する、そんな平和ですばらしい社会を、是非、築いてもらいたいと思っています。

最後になりましたが、七十二期生の保護者の皆様、お子様のご卒業、誠におめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。保護者の皆様には、この3年間、本校教育活動へご理解ご協力を賜りましたことに、教職員を代表して、深く感謝申し上げます。誠に有り難うございました。

それでは、卒業生の皆さんの前途を祝し、今後の限りないご活躍とご発展を心から祈念して、式辞といたします。

令和2年2月28日

大阪府立高津高等学校 校長 山崎 晃昭